

# 身近な社会的事象について主体的に考える児童の育成 ～地域素材の調査・追究・提案のプロセスに着目して～

小学校社会科班  
笠原 隆 (小学校教諭)

## I 自己課題設定理由



見学や調べる活動が考える活動に  
生きないなあ  
集めた情報を基に課題を追究させ  
たいなあ

## II 自己課題解決策

- 1 児童の予想を基に、見学の視点を定める
- 2 多くの情報に気付く見学と事実の意味を確かめるために行う見学
- 3 調べて分かったことを根拠として考えさせる
- 4 分かったことを基に、自分の考えを書かせる

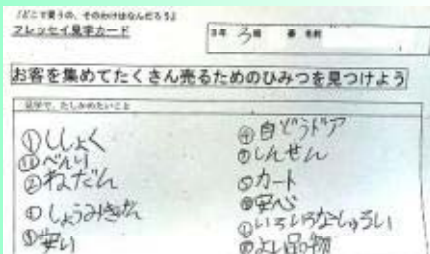
## III 実践概要

単元名 小学校3学年『スーパーマーケットで働く人々』

### 1 つかむ

課題『スーパーマーケットにたくさん  
お客が集まるのはなぜか』

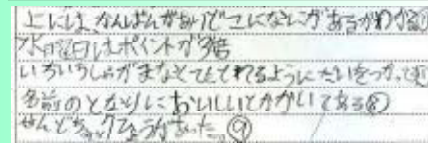
児童の予想を分類  
→ 見学の視点



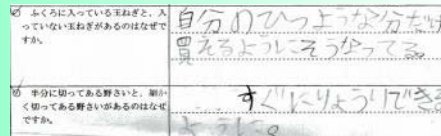
## IV 成果と課題

### 2 調べる

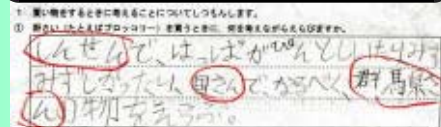
見学1 (視点をもって見付ける)



見学2 (工夫の意味を確かめる)

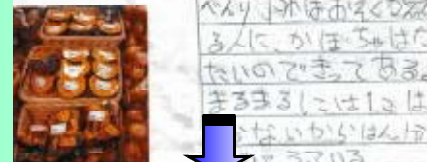


家の人へ聞き取り  
(買う側の考えを知る)

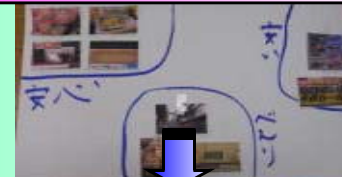


### 3 深める

何のための工夫か考える



分類する

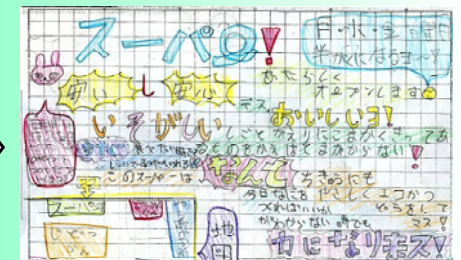


店の工夫と買う側の考えの比較



### 4 まとめる

新規開店のチラシ作り  
各自が学習してきたことを  
もとに考えを表現



### <成果>

- 1 予想をもとにした見学の視点を示し、見学の目的をはっきりさせることによって、ねらいにせまる事実気付いた。
- 2 調べたことに関わる写真やキーワードを分類し、店側・客側のような異なる視点で集めた情報を比較させることにより、その関連性に気づき、3年生なりに考えを深められた。

### <課題>

- 1 児童が情報の分析をする際の支援の在り方や、考えを深めるきっかけとなる資料の工夫
- 2 思考が発展していく過程が残るような、板書、ワークシート等の工夫

担当指導主事 義務教育研究係 飯沼 良夫

